

イカ類漁海況情報収集・提供事業（要約）

今村豊

目 的

スルメイカ、アカイカの分布・回遊、漁況等の調査結果を、漁業関係者に漁海況情報として提供を行い、効率的な操業の一助とし、漁業経営の安定、向上に資する。

材料と方法

1. 学習会の開催

漁業者を対象とした学習会を開催し、スルメイカ、アカイカに関する前漁期の状況、本県漁期前の情報を発信した。

2. 漁獲動向調査

日本海主要港（小泊、下前、鯨ヶ沢、深浦）、津軽海峡主要港（大畑）、太平洋主要港（白糠、八戸）におけるイカ類の月別漁獲量調査を行い、漁獲状況の基礎資料とした。

結 果

1. 学習会の開催

平成29年4月25日に八戸市中型イカ釣り漁船漁業者を対象に学習会を開催し、操業船の漁獲結果から推定した前漁期の状況、資源の状況等について説明した。また、5月25日に東通村（東通村連合研究会）、6月9日に泊漁業協同組合において、小型漁船漁業者を対象とする学習会を開催し、スルメイカの前年の漁況、(国)水研センターの調査結果、本県の漁況について説明した。

2. 漁獲動向調査

(1) 近海スルメイカ

2017年度の近海スルメイカの水揚げ動向について、主要港全体で見ると、水揚げ量は2,346トンで、前年比96%、近10年平均比32%であった。また、CPUEは209.8kg/隻で、前年比85%、近10年平均比44%であった。

海域別にみると、日本海（小泊・下前・鯨ヶ沢・深浦港）の水揚げ量は384トンで、前年比49%、近10年平均比27%であった。また、CPUEは271.2kg/隻で、前年比72%、近10年平均比54%であった。大畑港の水揚げ量は294トンで、前年比114%、近10年平均比23%であった。また、CPUEは137.5kg/隻で、前年比115%、近10年平均比33%であった。白糠港の水揚げ量は515トンで、前年比148%、近10年平均比48%であった。また、CPUEは137.5kg/隻で、前年比112%、近10年平均比48%であった。八戸港の水揚げ量は1,152トンで、前年比108%、近10年平均比34%であった。また、CPUEは297.0kg/隻で、前年比80%、近10年平均比43%であった。

(2) 船凍スルメイカ

最近5年間(2012～2016年)の動向をみると、延べ航海回数(水揚げ回数)は113回から214回で、平均163回となっている。2017年は107回で、前年比95%、近5年平均比66%となった。また、同期間の八戸港における船凍スルメイカの年間水揚げ量は6,872トンから15,070トンで、平均11,354トンとなっている。2017年度は6,396トンで、前年比93%、近5年平均比56%となった。1航海当りの水揚げ量は61トンから77トンで、平均69トンとなっている。2017年度は60トンで、前年比98%、近5年平均比86%であった。

発表誌：平成29年度イカ類漁場開発調査資料第43号及び外洋性イカ（スルメイカ・アカイカ）に関する基礎資料集 平成30年7月